保育ステップジャンプ
Hoiku Step jump

発 行 者

千 葉 県 民 間 保 育 振 興 会

代表者　髙　橋　克　文

編集者　藤　井　威　郎

事務局　千葉県松戸市東松戸 1－2－34

〒270－2225　音のゆりかご保育園

ＴＥＬ　０４７－７１２－１０５６

ＦＡＸ　０４７－７１２－１０５７

お礼

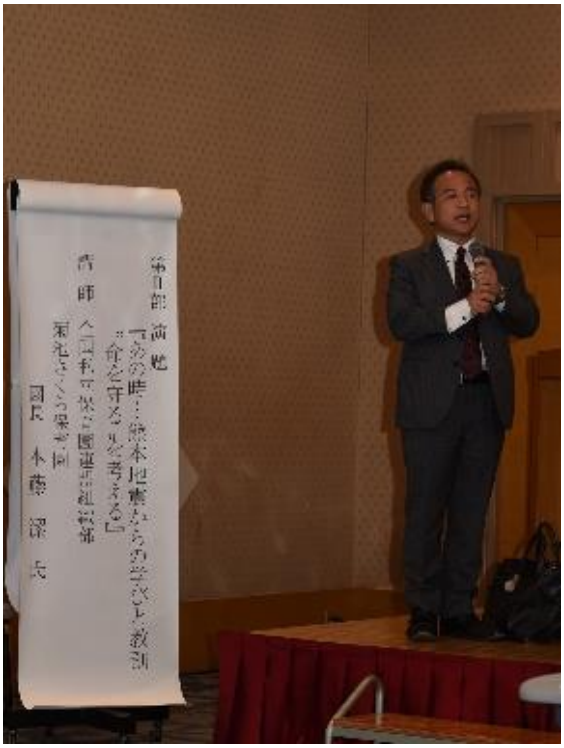
平成 29 年度第 22 回保育者の集いに於きまして沢山の方々にお越し頂き、盛況に終えることが出来ました。保育者の集いは、会員園の保育士・栄養士など、現場の職員が集まり企画し進めてきました。沢山の方々にお越しいただきました事、誠に感謝申し上げます。ご参加戴きました皆様、誠にありがとうございました。

平成二十九年度総会　第二部講演

テーマ「あの時熊本地震から学びと教訓。
「命を守る」を考える」
菊池市　菊池さくら保育園　園長　本藤潔先生
平成二十九年五月十六日（火）
京葉銀行文化プラザに於いて

報告者　広報委員長
チューリップ保育園
園長　藤井　威郎

菊池さくら保育園さんは、熊本市と阿蘇山の間、益城町から車で25分位の所。地域によって被害の違いが大きく、地震に対する温度差、対応のスピード差も大きかったそうです。そんな中、マニュアルよりも職員の普段の訓練による意識のほうがはるかに高かったとのことです。それは、「どうしようか」など『どうしようか』ではなく、「こうなったらこうする。」を職員一同で徹底して意識を高めた事が一番だったとの事です。有事の際に保育者の普段の訓練から積み上げられた意識の高さには感銘を受けました。SNSは震災時にも情報源として重宝されたそうです。



その後の話では、子どもの心のケアについてでした。小学校ではスクールカウンセリング中心に様々な人がかかわるそうです。しかし、保育園はそこまでケアできないという事となってしまった為、子どもの心のケアにも本藤先生は尽力されたとの事でした。しかし、そこでは熊本の『強がって人を頼らない』県民性が、無理をしてしまう家庭を増やしたのではないかとの事でした。それにより、大人と違い自分で落ち着かせる術を持たない子へのケアはなかなか進まず、9月まで続いたそうです。その中で保護者への提案として、子どもの「怖い」や「どっか連れてって」の言葉に共感することを勧め、伝えていったそうです。心に残った言葉として「普通に暮らしていける事の尊さ、そして人として人を支え合いながら生きている。」です。普通に暮らしていけること、足るを知るという事なのかもしれません。しかし、時には情報により必要以上の環境を求める事に盲目になりがちです。私たち保育園の場所、環境は全て違います。普段からの広い情報と人との繋がりが網の目のようにつながり、地域社会を形成し、世代を守っていくのだなと考えさせられました。大地震のどうしていいかわからない、状況が掴めない最中に、保育者の対応力に気づき、子どもの心のケアに携わり、本藤先生のご活躍に敬服いたしました。

高山静子先生の連続講座

テーマ　「保育の「質」を環境構成から考える」

日時　平成二十九年六月一日（木）

講師　高山　静子　先生

報告者　研修委員長
子すずめ保育園
園長　伊藤　未来

保育環境には先生方の子ども観（子どもをどんな存在ととらえているか）が現れます。

そして、子どもの自発的な遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であるということも学びました。以下は参加者の感想です。「子どもを信じる」保育が理想だが、大人主体となってしまっている。クラス（0才児）の環境は安全第一になってしまい、子ども一人ひとりの発達に合わせた環境になっていなかった。

今回の研修を園全体でフィードバックし子ども主体の環境にしたい。自然の多い園なので、その特性を生かした保育をしたい。目の前の子どもの姿から環境を考えることに納得できました。子どもの動きをよく観るということから、環境構成を考えていきたい。時間的環境・物的環境・人的環境どれもが大切だとわかりました。今良い環境なのかと悩んでいたところ、高山先生のお話を聞き改めて考えさせられました。子どもを信じて待つことをしてみようと思う。今回の講義では、たくさんの具体的な写真を見せていただき、イメージしやすく学ぶことが出来ました。

現在一斉保育をしているので、遊びが中心・子ども達が考えて遊べる環境を考えていきたいと思う。子どもにやらせていて、自発的な遊びではなかったのだと気付いた。現在行事や習い事に力を入れているのでとても難しいと思いましたが、今できることから始めようと思いました。環境は、はじめに子どもありきで、引き算の考え方というのも参考になりました。

子どもにとって大事な環境ですが、ここまで掘り下げて考えたことはなかったので、参考になりました。今日は園長先生からすすめられて参加しました。経験も一年ちょっと、新卒の先生もいて一杯いっぱいです。毎日の保育で精一杯で考えられていませんでした。今回参加して多くのことを学ぶことが出来ました。もっと子どもたちのことを信じてあげたいと思いました。新しい保育園の設立にかかわっていて夢いっぱいです。保育者とも保育園が目指す保育について共鳴しあうところにたどり着きました。高山先生のお話から、子どもが育つ力・育ちたいという意欲に寄り添い、信じて待つ保育者でありたい、そういう感性を失いたくないと強く思いました。

保育向上講座「保育の原点からの再出発」

テーマ 「保育の原点 それは人間関係作り」

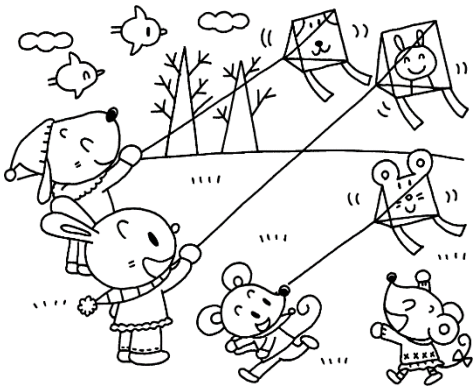
日時 平成二十九年六月八日（木）

講師 池田 祥太朗 先生

報告者 研修委員長
光の子保育園
園長 長島 博樹

今年度の「保育向上講座」の一貫した主テーマは、【保育の原点からの再出発】です。第1回目の小テーマは【保育の原点 それは人間関係作り】です。池田先生の「ここは明日から活かせる保育技術を学べる場ではありません」という言葉から始まり、グループワークの討議を通して、これから5ヶ月一緒に学び合う仲間と「保育現場で気づく問題点」等について話し合い、交流を深めました。以下は、参加者の感想文から抜粋させてもらいました。保育士として技術を向上させる講座でなく、保育をしていくうえで自分がどういう人間なのかを知り、自分を知ったところから技術がついてくるということが印象に残り学ぶことが出来ました。保育は“毎日”続いていくものである。“今日”の“一言”が明日の子どもに影響していく。受容＋共感＝傾聴 リーダーシップは人間関係に繋がる。今日の講義で印象に残ったのは「TRY」することです。新人ということもあり、なかなか自分を出すということは難しいけど、何事も頭で考えすぎるよりは、行動で示していくことが保育にプラスとして生かされていくというお話を聞き、自分で行う保育に自信をもっと持っていいのだと感じることが出来ました。色々なことにTRYしていきたいです。

カウンセリングマインドの大切さや、保育士としての発言など、改めて意識していかなければいけないと感じました。技術より大切なものを忘れずに子どもと関わっていきたいと思います。



保育向上講座

「保育の原点からの再出発」

テーマ　「プロの保育者とスペシャリストの保育者の決定的な違い」

日時　平成二十九年八月十日（木）

講師　池田　祥太朗　先生

『話し合いで本当にはじめのうちどう話して良いか困りました。この感覚は子どもが「自分の思ったことをきちんと言いなさい」と先生に言われた時と同じなのだと実感でき、これから子どもと接するとき、話したくてもうまく表現できない思いをちゃんと受け止めていこうと思いました。・話が時々それて分かりにくいところがあります。昔話が入ると長くなりますので、何の話かよくわからなくなることがありました。』

『「プロ目標」今回の研修を受けて、改めて、自分自身が「先生」「プロ」と呼ばれる立場であることに気づかされました。自分の中ではまだ「スペシャリスト」と「プロ」の違いがはっきりとは分からず、しかし、保育をする上で保育の本質的、原点であることを妥協することなく、子どもや保護者に援助するには常にどうしたらよいのかと最善に考えていくことが大切だと思いました。』

『「プロの保育者になるために自分の努力目標」“プロ”という言葉を聞いて、全く考えたことがなかったですが、保育という意味をしっかりと理解していく人が“プロ”と学んで、自分はどうかな…と考えました。先生が話していた挑戦すること、自分に厳しく乗り越えていく力が必要というのを聞いて、正直そこまで意識して保育をしていなかったと思いました。子ども達と楽しく、かつ、けじめがつけられるよう指導していき努めたいと気付かされた講義でした。保育園が救貧から生まれたことを今日のお話の中で知りました。プロの保育者になるために努力していかなければならない点は一年目の私にとって、まずは知識や先輩方の子どもや保護者への関わり方だと感じました。自分の本音の①～⑥の中にほとんど思っていたことがあったので、まずはこの①～⑥を無くしていき、見失いがちな①～⑤を目指し頑張りたいと思いました。』

『プロの保育士としているためには、様々な人、考え、環境に接していくことが必要になってくるのではないかと思います。人はすぐに慣れそして飽きていくもの、楽な方へと流されていくものだと感じます。いつも新鮮な気持ちでいるためにも、新しいものに挑戦していく、知らないことに触れることが大切だと私は本日学びました。』

『子ども達の置かれている環境(家庭)は様々です。プロの保育士として、その子ども達が幸せになれるために、どう保育をしていったらいいのか知恵をしぼり、子どもの輝いた笑顔が見られるようにしていきたいと思いました。そうすることで、保護者も幸せになれるということを学ばせて頂きました。ありがとうございました。』

『～プロ保育者になるための自分の努力目標～私は新卒2年目なのですが、学校で2年間机の上で紙で向き合ってきた知識の勉強の何倍ものことを現場で学んでいます。実際に子どもたちの動き・行動を見てみないと想像できないこともあるしその場の状況において毎回対応も変わってくるので、机の上での学びも忘れずに行きつつたくさんのことを先輩・先生と子ども達、保護者と経験して自分がその時に感じたことを大切にしていきたいと感じました。

今回の研修では「プロフェッショナル」と「スペシャリスト」についての講義だ

った。私の保育を振り返ると、大学で学んできた“マニュアル通り”の保育ばかりしていたことに気が付いた。プロの保育士になるための課題５つを自分自身に課し今後の仕事のあり方を見直していきたいと思った。又、今までの講義の中で一番難しい内容であり、ディスカッションが大変だったが良い勉強になった。』

『プロの保育者の課題において、見失いがちな目標例に挙がっていたものほとんどを見失っていた気がする。又、本音の例を見て全て当てはまってしまった気がする。誰のためなのか、何のために保育者となったのかもう一度考えていきたい。そして、今後「プロ」となっていけるよう柔軟に対応していける保育者を目指して努力していきたいと思った。』

『保護者からプロとして見られている、との池田先生のお話を聞き、一瞬重荷に感じました。しかし、同時に今までの自分はプロとして見られても大丈夫なのか？意識が持てているのか、と疑問を持ちました。スペシャリストから子ども中心の考えを持ったプロとして見られても恥ずかしくないよう、自己研鑽を日々していきたいと思いました。』

『私は常に子どもたちが笑顔ということを大切に保育しています。今日の講座を受け「プロとスペシャリスト」の違いが分からなくとても難しかったです。話し合いもうまくまとめることができず聞き手になってしまったのが反省です。また、技術だけでは保育できないことも思い返し、保育者として常に見られているという意識を持って、子ども達を幸せにできる保育を行いたいと強く思うことができました。発言も進んで行いたいです。』

『今日の講義は、私にとって非常に苦しく身につまされる内容でした。しかし、そういう機会がなければ成長もないのだとも言えます。努力目標というか、自己改革になりますが、保育の世界に身を置きながら常に“子ども中心主義”とは言えない自分のあり方をハッキリと指摘されました。自分に甘く、妥協している部分が多々ありました。保育のプロを目指すならこの甘えを捨てなければと強く思いました。～とても勉強になりました。ありがとうございました。』

『いままで、スペシャリストとプロフェッショナルを比べたことがなかったし、自分がプロとも思わない（思えない、自信がない）気持ちでいたので、改めて考える良い機会になったと思います。常に相手の気持ちが考えられる人でいたいと思いました。保育“しか”できないのではなくて保育だけじゃなく保育以外の「人」としての部分をみがいてプロを目指していきたいです。』

『スペシャリストとプロフェッショナル”いままではスペシャリストという感覚でいました。スペシャルなんだから何でもどんな問題も答えてあげられると思っていました。でも、相手が不幸になってもいいという考えだということを学びました。保育園では仕事をして「保護者の前ではプロの保育士として」といわれてきましたが、そのプロフェッショナルということの意味をもう一度考え直し、一緒に仕事をしている人に伝えていけるようになりたいと思いました。』

『先生のお話と、ワークを通して「プロ」としての保育者になるためには一番に、他者（子どもや保護者）を主体とし何を思い何を求めているのか通じ合い関われる『心』を持てること。そして、気持ちだけではなく子どもの発達に寄り添っていける保育者としての知識を得ていこうとする向上心を持ち努力していけることだと気付かされ、子どものためにもっと努力していきたいと思いました。まだまだ、自分を守りプロとしての意識が足りないなと思いました。』

保育向上講座「保育の原点からの再出発」

テーマ　「子どもの本能に焦点をあわせる保育」

日時　平成二十九年九月七日（木）

講師　池田　祥太朗　先生

保育と本能ということで、なかなか、難解なテーマに参加者も戸惑いを見せている様子もありました。保育者としてただ単に子どものわがままや趣向の違い、人間関係作りに弱いと判断してしまうことへの提言であった研修内容ですが、参加者の皆さんはどう捉えたのでしょうか。普段、行なっている研修は分かり易い、理解し易い研修が多い。でもそれは、イメージし易い研修に慣れていってしまっているだけで、実は講師の方が伝えたいことを読み取ろうとしていないのではないか、とグループで話しながら自分自身を反省した。正直、本能と保育や人間関係がどうつながるかまだ分かっていないが、自分の知らない事を自分なりの考えで分かろうとすることも大事なんだなと痛感した。以前、職場の会議で、食べること・排泄・眠るは一生ついてまわることなので、大人になった時、恥ずかしくないようにしてあげたいと話が出たが、その他、本能・泣くことに対しても「人見知り」だなどと決まった形で見てしまうことのないようにしたいと思いました。「子どものわがままと判断する恐れ」など、大人が決めつけてはいけない部分があるということを理解し、保育する中で何事も決めつけていくのはやめようと感じた。難しい内容だったが、自分なりに分かった部分を大切にしていきたい。子どもたちは本能のままに育ってきて、まず最初に学習する場が保育園という、重大な仕事をしているんだなと感じました。子どもたちが幸せになれる為、少しでもお手伝いができたらなと思いました。保育の基盤として、生まれながらにもっている本能、そして、生きていく中で培われるものを手伝っていく「カウンセリングマインド」がより重要であると感じました。